

## ろくがつつく 六月の句

てりつける

たいようギラギラ なつききたる

照りつける太陽ギラギラ夏来る 6年 涼真

みずたまり

ゆれるえがおと つゆはれま

水たまりゆれる笑顔と梅雨晴間 6年 若生

あかいみは

しあわせふたつ さくらんぼ

赤い実は幸せ二つさくらんぼ 5年 真桜

かたつむり

きそってさがす かえりみち

かたつむりきそってさがす帰り道 1年 かな

さみだれに

あでやかにさく こんぺいとう

五月雨にあでやかにさくこんぺいとう 3年 桃佳

あめのおおくなるきせつです。でも、あめがふると、いきものやおはなは、げんきになります。みなさんも、まけないように、げんきにこえをだしてみましょう。

## くさはら 草原

## かねこみずす 金子みすず

つゆの草原  
はだしでゆけば、  
足がとおおそまるよな。  
草のにおいもうつるよな。

草になるまで  
あるいてゆけば、  
わたしのおかおはうつくしい、  
お花になって、さくだろう。

草原をはだしであるいたことありますか。

草のにおいがうつつて、草になるまであるいて、

お花になる、なんてすてきなんでしょうか。

お花になるじぶんのことをかんがえながらよみましょう。



## ぼくと おひさま てんとうむしまる

ぼくの せなかは まんまる  
あかく かがやき まんまる

ぼくの せなかに テンテン  
くろい みずたま テンテン

そらに かがやく おひさま  
ぼくの すがたに そっくり

ぼくの せなかは ぼかぼか  
おひさま あびて ぼかぼか

ぼくと おひさま なかよし  
いつも いつでも なかよし!

てんとうむしとおひさまはなかよし。てんとうむしのせなかのてんてんは、おひさまとそっくり。おひさまとおはなしているてんとうむしになたつもりでよんでみましょう。

## つけたしことば

あきれがえるの ほおかわり

呆れ蛙の頬かわり  
「あきれかえった」と言うとき

かんにんしなの の ぜんこうじ

堪忍信濃の善光寺  
「堪忍しな、ごめんよ」と言うとき

そうでありまの すいてんぐう

そうで有馬の水天宮  
「そうであります」と言うとき

やっかい もっかい しじみっかい

厄介もっかい蛸貝  
こまることのあるときに言う

たまげた こまげた あずまげた

たまげた駒下駄東下駄  
「たまげた」と言うとき

きたがなければ にっぽんさんかく

北が無ければ日本三角  
人が「きたない」と言ったとき

どうしたひょうしの ひょうたんやら

どうした拍子の瓢箪やら  
「どうしたはずみやら」と言うとき

つけたしことばも、3つめとなりました。たのしくよんでもすか。今月も、おずかしいことはかんがえずに、たのしくおもしろくわらいながらよんでみましょう。



